

～案内の素晴らしさに感銘～

高田 和美

お正月が終わると町内はいっきに左義長祭りの準備が始まる。祭り初日は土曜日、小学校からの帰り道には左義長がスタンバイしている中を走り、母の手作りの「稲荷寿司」を頬張り、はっぴを着てお祭りへGO！！6月に入ると京街道の商店街では土曜夜市が始まり、どんな花火を買ってもらおうかと楽しみで仕方なかった。小さな頃から通っていた図書館は伴庄右衛門宅だった。近所の子供達で遊び回っていたのは背割り排水の溝だったのかと、今回参加させていただき事がきっかけとなり驚きの連続でした。生まれ育った街をあらためて振り返ることができてとても嬉しく思っています。そして、こんな風に懐かしい街を何度も歩くことができたるとも素敵だと何度かの研修で実感させていただきました。



先輩ガイドの皆さんの案内の素晴らしさに深く感銘と憧れを抱きました。皆様どうぞよろしくお願いたします。

～八幡の良さを伝えたい～

東 明美

この度、定年退職を機にボランティアガイドの活動に参加させて頂く事になりました。私は特段歴史が得意と言うわけではありませんが八幡を訪れた方に少しでも自分の住んでいる町の良い所を知って欲しいこと、人とのふれあいを求めたこと、歩く事は健康増進に役立つこと等がガイド養成講座を受講しようと思った理由です。私は八幡育ちで地元の事を知っているつもりでしたが研修で先輩方のガイドを聞かせて頂く度にその豊富な知識に「なるほど、へえ～」と新しい発見があります。私もてんびんガイドをお願いして良かったと言ってもらえる様に、色々勉強していかねばと思っています。まだ仕事も続けていますのでフルで活動に参加できませんがこの先もガイドを長く続けていけたらと思います。未熟者ではありますがお導きの程よろしくお願致します。



～近江八幡観光のひとつひとつが発見～

広川 哲朗

この原稿のテーマとなっている私の抱負や決意といったそんなだいそれたものも得意なものもありませんが、大阪近郊からこちらに移ってきて、街にどんな歴史があるのか何も知らないままもう30年余りがたちました。

企業勤めが終わった今、信長、秀吉、秀次、家康がこの街にどうかかわり、そのご威光を近江商人はどう受け止め、なにを拠り所として生き抜いてきたのか近江の地を愛してやまなかった芭蕉やヴォーリズは近江の人とどうふれあい、いったい何に魅力を感じ故郷を離れこの近江の地に今も眠ることになったのか、何も知らない私にとってはこれらひとつひとつが発見なのです。



この街にビッグデータや資金を集めることになった八幡堀、この街に火祭りがなぜふたつあるかもボランティアガイドという鍵がもう謎を解いてくれました。時間のできた現在、琵琶湖で冬はみずどり、夏はみずくさの観察会を仲間と開催しています。琵琶湖の里山に遊歩道もすこしずつ整備しかけています。ご興味のある方はお気軽にお声かけください。お酒の好きな方には歴史の代わりにおいしい地酒のイベントや蔵元へお誘いいたします。